感染症ひとくち情報

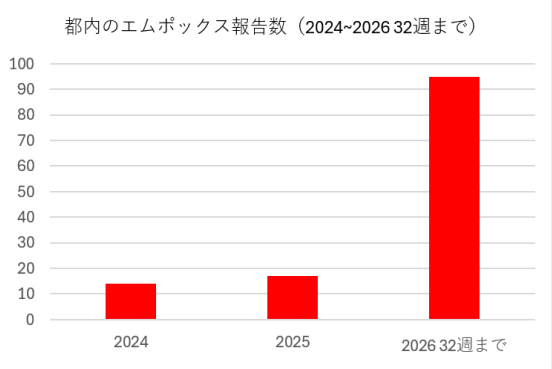
2026年8月25日
東京都健康安全研究センター

エムポックスってどんな病気？？

どんな病気？

・エムポックスはエムポックスウイルスによる感染症です。
・発生状況は、世界では2022年5月以降、主に男性間での性的接触を行う男性（Men who have sex with men: MSM）を中心とした国際的な流行が発生し、2023年以降はコンゴ民主共和国を中心としてアフリカ地域での流行が報告されました。
・都内では2022年に初めて患者が報告され（5件）、2023年には168件の報告がありました。その後2024年は14件と減少しましたが、2025年は17件、2026年は8月上旬時点で95件の報告があり、増加傾向にあります。
・エムポックスウイルスには大きく分けてクレードⅠとクレードⅡの2種類のクレード（遺伝的系統群）があり、さらにⅠa、Ⅰb、Ⅱa、Ⅱbのサブクレードに分けられます。日本ではクレードⅡの報告が続いていましたが2025年9月に国内1例目のクレードⅠbの報告があり、2026年4月に都内で国内2例目のクレードⅠbの報告がありました。
・最近の専門機関の評価では、遺伝子型による致命率や感染・伝播性等の差は顕著ではなく、異なる対応を行う必要はないと考えられています。

潜伏期間	7～14日（最大5～21日）
症　　状	発熱、頭痛、リンパ節腫脹、筋肉痛などの症状が続き（前駆症状）、発熱1～3日後に発疹が出現 ※前駆症状がない事例もあり
検　　査	症状は他疾患と区別が難しいため検査で確認することが必要



どうやってうつるの？

主に、感染した人や動物の皮膚の病変、体液、血液に触れた場合（性的接触を含む）や、患者と近くで対面し、長時間の飛沫（ひまつ）にさらされた場合、患者が使用したタオルや寝具に触れた場合などに感染します。

治療法はあるの？

・多くの場合、発症から2~4週間症状が持続し自然軽快するものの、小児あるいは接触の程度、患者の健康状態、合併症などにより重症化することがあります。痛みが強い場合など症状に応じて緩和する治療を行うことがあります。
・国内では抗ウイルス薬テコビリマットが薬事承認され、特定の病院において治療体制が整備されています。

予防法はあるの？

・石けんと流水での手洗い等の一般的な感染対策を心がけるとともに、流行地では病原体を保有する動物（げっ歯類、サル等）や、感染者の体液との接触を避けることが大切です。
・天然痘のワクチンによって約85%発症予防効果があるとされています（相談は特定の病院に限られます）。

エムポックスを疑う症状があった場合はどうすればいいの？

・感染の不安がある方は、住んでいるところの保健所又はエムポックスの相談ができる医療機関にご相談ください。都内でエムポックスの相談ができる医療機関は右のQRコードからご確認ください。
・受診の際には、周りの人にうつさないように、飛沫が飛ばないようサージカルマスクを着用し、水疱を含む皮膚病変はガーゼなどで覆うなどの対策をした上で受診しましょう。
・皮膚病変がある場合は素手で触らないようにしましょう。万一触った場合は手洗いをしましょう。
・同居者とのタオル、寝具、衣類の共用は避けましょう。

都内で相談のできる医療機関はこちら

お問い合わせはお近くの保健所へ